

# Photoshop で デザイン

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから始まる、めくるめく大学生活が楽しみでゴハンもノドを通らないといったところでしょうか？もっとも、この時期はみなさんきちんと自炊してらっしゃると信じていますが（笑）

さて、ここでは画像加工ソフトとしてとして名高い Adobe 社の Photoshop というソフトを使用してなにか画像でも描いてみようではないか、というコーナーです。使い慣れている方であれば読み飛ばしていただいて構いません。

Photoshop というソフトは前述した通り、プロの CG クリエイターなども御用達の有名ソフトであり、その高機能さには定評があります。ただ、あまりに多機能であるがゆえ、これから使ってみようという方にはいささか敷居の高いソフトであることも否めません（そして値段も高い）。実際、ここでこうして記事を書いている私も一部の機能しか使えていないという状態です。基本的な操作を載せている How to 本を読んでも、実際なにかから手をつけてみればいいのか戸惑う人も少なくないはずで

ですから簡単な分野から始めてみようということで、今回は文字装飾、ロゴデザインに関して Photoshop での表現方法についていろいろやってみようとおもいます。これは web ページ作成でも使えると思いますので、是非活用して下さいね。

以下の 3 つの項目を説明します。

1. 影付き文字
2. 画像から切り抜いたような文字
3. 球面上の文字

## 1. 影付き文字 (少し立体感をだして)



まずは簡単なものから説明していった方がいいということで影付き文字の作

り方です。

Photoshop のバージョン 4 までは文字周りの機能がやや貧弱でありましたが 5 になって随分と高機能になりました。6 はさらなり、といった感じですが操作の互換性なども考慮してバージョン 5 を中心に話を進めていきます。

文字ツールというのがあります。左側のツールパレットにある「T」と書いてあるボタンです。それを押すと文字が書けるようになります。とりあえず今回はやや太めの字を大きめにして影がよくわかるように「O U C C」と書いてみます。

また、画面右下の方にはレイヤーパレットというものがあり、ここに現在作成中の画像を層別に管理できるようになっています。今書いた O U C C という文字が独立したレイヤー（層）となっていますね？そこを右クリックすると「効果」というメニューが出てきます。それをクリックします。ドロップシャドウという項目がありますね、しかもチェックが ON になっているはずです。そう、たったこれだけで影ができています。

さらにここではもう少し立体感などを簡単に醸し出してみたいので「次へ」をクリックしながら「光彩（内側）」および「ベベルとエンボス」にも適用のチェックを入れて OK ボタンを押します。これだけでもうできあがりです。細かな調整が必要な場合は適用、角度、ぼかし具合などを調節すればよいだけです。他にも色々な効果を出してくれるフィルタもありますのでいろいろ試してみてください。

## 2 . 画像から切り抜いたような文字



はい次は上のような文字を作ってみましょう。これも慣れると非常に簡単で他にも利用できる便利な技です。

まず文字の中身となる画像をどこかで手に入れてきます。なるべくコントラストの強いものが良いでしょう。いいのが見つかったらそれを Photoshop で読み込んで「選択範囲」「すべて選択」とし、「コピー」を選びます。とりあえずこれでクリップボード上にコピーしたような状態ですので、その画像は最小化して結構です。

次に「ファイル」「新規」を選びます。新しい画像作成ウィンドウが開きましたら文字ツールの「T」のボタンを押せばなしにしてください。すると

ボタンの横にまだいくつか出てくると思います。ここで点線になっている「T」を選んでください。これを文字マスクツールと言い、これで入力した文字は外枠が選択範囲となってあらわれます。とりあえず文字は4文字くらいでサイズは大きく、フォントは太目のゴシック体などを選ぶと見栄えがいいでしょう。

上の画像では「F1 NEWS」を書いてみました。文字を書き終えたらOKボタンを押します、すると F1 NEWS が選択範囲となって表示されたはずですが、ここに先ほどコピーした画像を入れればよいだけです。編集 選択範囲内にペースト とすればばっちり F1 NEWS の枠内に画像が入ったはずですが、もしも気に入らなければ画像を移動してみて見栄えがいいように調節してあげてください。

これに影をつけてあげればより一層引き立つロゴとなるでしょう。

### 3 . 球面上の文字



ここでは Photoshop の一部の機能を用いてやや立体的な文字装飾（というより様々なフィルタの使い方）を考えてみたいと思います。

上ではビリヤードの球をイメージしてつくってみました。使用した機能は放射状のグラデーション、変形（球面）、逆光です。

まずはツールパレットの選択範囲のボタンを押しっぱなしにして、矩形選択ツールを変更して楕円形選択ツールが出るようにしましょう。これで選択範囲は楕円形をかけます。真円を選択するには Shift キーを押しながらマウスをドラッグしてみればうまくいくはずですが。

ある程度の大きさの真円が選択されたら、おなじくツールパレット上のグラデーションボタンを押しっぱなしにして放射状グラデーションボタンが出るように変更します。色はとりあえず山吹色から黒へのグラデーションあたりにすればよいでしょう。

グラデーションをかける部分ですが、円中心の斜め上の方（上の画像では最

も光っている部分)から中心に関して反対側の円の縁までもってきて色づけしてみましょう。多少は立体的な円が見えるはずですが、ここで文字ツールを使って適当な文字を一文字入力します。これもサイズ大きめ、字幅の太いフォントを選ぶと良いと思います。

文字は少し中心からはずした感じで、円内に収めます。

また楕円形選択ツールで作成した円より若干小さめの径を持つ真円を選択します。きれいに円内に収まるようにしてください。そして「フィルタ」「変形」「球面」と選んでいき、適度なゆがみ(適用度 40%くらいかな)を持たせます。すると先ほど書いた文字が球面上にあるようにゆがんで見えてくると思います。

さらに文字が球面上にあることを印象付けるため、「フィルタ」「描画」「逆光」を選び、最初のほうでグラデーションをかけた開始点あたりに弱めの逆光を当てます。これでライティングの問題もほぼ解決し、立体的な球にかかれた文字となって見えてくると思います。

## おわりに

以上3点に渡って解説してきましたが応用できる範囲は無限にあります。全ては製作者の感性次第ということになってはきますが、何でも始めは模倣からです。できることから真似てみて、自分なりに変えていくとオリジナリティのある作品となってくるでしょう。まずは怖がらずに気軽に触れてみることです。私もたまに部室におりますので、基本的なことでしたらなんでも聞いてください(あくまで基本的なことね(汗))部室のパソコンにもPhotoshopがありますので高くても買えない!という人はそちらでいじくりまわしてみてください。

文責：徳永和久(kazuo)